

令和3年度 道徳授業地区公開講座の様子

1年2組、3組 主題名「みんなに同じように」

資料名「みんな いっしょ」

ねらい……自分の好き嫌いにとらわれず、みんなに同じように接しようとする心情を育てる。

あらすじ…子どもたちが楽しく遊んでいるところに、「わたしも いれて。」と言ってくる子や、遊びに入れて欲しいが自分から言い出せない子がいる。

みんなで仲良く遊ぶためにどんな言葉をかけてあげたらよいかを考え、誰にでも同じように接することの大切さに気付かせる教材である。

主発問……「みんなで仲良く遊ぶために大切なことはどんなことだと思いますか。」

【御家庭で話し合ってほしいこと】

学校生活にも慣れ、友達との輪が広がり始めたこの時期では、遊びの中でこのような場面の経験があった子もいるようです。個人の感情だけでなく、周囲の友達全員と気持ちよく過ごしていくために、自分ができる行動について考えてみてください。

1年1組 主題名「友達っていいな」

資料名「こころ はっぱ」

ねらい……友達とすすんで関わり、仲良くしようとする心情を育てる。

あらすじ…寂しそうな様子で友達を欲しがっているのしくんを、木の上から見ていたうさぎちゃん、たぬきくん、きつねくん。3匹は「ともだちになって。」「いっしょにあそぼう。」と元気に声を掛ける。

新しい友達ができる喜びや、元気に声を掛けられることのうれしさを考える。

主発問……「いっしょに遊ぶ4匹は、どんなことを思ったでしょう。」

【御家庭で話し合ってほしいこと】

互いに関わり合うことにより心が通じ合い、そこに確かな友情が生まれる。それがあってこそ心の安定が図られ、楽しい生活が送れるのではないのでしょうか。仲良くしようと相手に働きかける気持ちや、相手の立場に立ってその心情を思い、温かい気持ちで接しようとする大切さについてぜひ話し合ってみてください。

2年 主題名「友達のために」

資料名「ともだちやもんな、ぼくら」

ねらい……身近にいる友達と仲良く過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。

あらすじ…ぼくとマナブとヒデトシは、かみなりじいさんの家の木にいるカブトムシをとろうと木に登るが、見付かってしまう。3人は逃げ出すが、ヒデトシが転んでしまう。

葛藤し悩む中でも、友達を助けようとする気持ちを育てる。

主発問……「ヒデトシをたすけに。と言ったとき、ぼくはどんなことを考えたでしょう。」

【御家庭で話し合ってほしいこと】

子どもたちにとっての「友達」とは、一緒に遊ぶ子、楽しい子という感覚があります。まだ経験の少ない2年生ですが、友達が困っているときは助けたり、守ったり、時には一緒に謝ったりすることが大切だと考えることができました。御家庭でも友達を大切にすることとはどういうことかについて考えてみてください。



3年 主題名「誰に対しても公平に」

資料名「みさきさんのえがお」

ねらい……分け隔てをせず誰にでも公正、公平に接しようとする態度を育てる。

あらすじ…図書係の貸し出し当番の「ぼく」が、人気のある本を先に予約した「みさきさん」に貸すべきか、仲の良い「しゅんやさん」を優先すべきか、どちらに貸すか悩み、葛藤するお話である。誰かを特別扱いせず、誰にでも公正、公平に接するために何が大切なのかを考えさせられる教材である。

主発問……「すぐに返事ができなかったのは、『ぼく』がどんなことを考えていたからでしょうか。」

【御家庭で話し合っしてほしいこと】

多くの子どもたちが資料を通して「ぼく」の葛藤に対して理解している様子でした。誰に対しても公正、公平に接する心構えとして、誰とでも休み時間に遊ぶ、自分から遊ぼうと声を掛けるなど、自分の生活を振り返って考えていました。誰にでも公正、公平に接する大切さについて御家庭で話し合う機会にしていだけたらと思います。

4年 主題名「きちんとした生活」

資料名「いっしょになって、わらっちゃだめだ」

ねらい……よく考えて、自分にできることをしようとする態度を育てる。

あらすじ…ゆうじ君をからかっていることをいじめではないかとお父さんに指摘された「ぼく」が、自分のいじめに気づき、自分なりの行動に移すという内容。してよいことと悪いことをしっかりと見極め、周囲に流されずに自分で考え、自分にできることから始めることの大切さを考えさせる教材である。

主発問……『「ぼく」が黙って教室を出ていったのはどんなことを考えたからでしょうか。』

【御家庭で話し合っしてほしいこと】

4年生は友達関係を重視する時期です。周りの友達に同調して行動することも多く見られます。よく考えて行動することの大切さ、またいじめとは何かを御家庭で話し合う機会にしていだければと思います。



【6年】 主題名「多くの支えに感謝し、それに応える」

資料名「土石流の中で救われた命」

ねらい……私たちの生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることを理解し、感謝する心情を養う。

あらすじ…平成5年鹿児島に百年に一度という大雨が降った。豪雨のため、崖が崩れて道路と線路がふさがれてしまう。逃げ場を失った650人の人々。その中には赤ちゃんを抱えた母親もいた。偶然そこに居合わせた警察官2人は、必死になって脱出の指揮をとり人々の命を守った。自分達や世の中のために尽くしてくれる人々の支えや援助を意識させることのできる教材である。

主発問……「船に乗ったとき、人々は有村さんと前田さんに対して、どんなことを思ったでしょう。」

【御家庭で話し合っしてほしいこと】

児童の実態として、他を意識し、より広い立場から社会のことを考えることができるようになってきます。だからこそ、日常生活の中でも自分が何かを与えられていることに児童自身が気付く力を育てていきたいと思えます。日常生活で自分が支えられていることを考える機会にしていればと思います。



【5年】 主題名「誰に対しても思いやりの心を」

資料名「ノンステップバスでのできごと」

ねらい……相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にしようとする心情を育てる。

あらすじ…主人公の和也が祖母の家に荷物を届けに行くバス車内の出来事。停留所で乗ってきた車椅子のお兄さんに対して悪口を言う高校生に心の中で頷いてしまう和也。車椅子のお兄さんを手伝っていたおじさんの「バスに乗るのは当たり前ですからね。」の発言に心が動かされる。見ず知らずの人であっても、相手の思いを推し量ることの大切さについて考えることができる教材である。

主発問……「車椅子のお兄さんとおじさんの会話をじっくり聞いていた和也は自分を振り返って、どのようなことを考えたでしょうか。」

【御家庭で話し合っしてほしいこと】

高学年は様々な人と関わる中で、自分と関係の深い人にはより親切にしたいと思うようになります。人間関係の深さに関係なく、誰にでも自分ができる親切な行動をとることの大切さを考える機会にしていればと思います。